

令和6年度第3回 かごしま外国人材受入活躍推進会議の結果（概要）

- 1 日時 令和7年2月17日(月) 10:00~11:30
- 2 場所 県庁6階大会議室
- 3 出席者 42名（経済・業界団体、監理団体、有識者等、国、市町、県）
- 4 内容

(1) あいさつ

(2) かごしま外国人材受入活躍推進戦略改訂について

(3) 令和7年度外国人材の受入活躍推進に向けた県の主な取組について

(4) その他

かごしま外国人材受入活躍推進戦略改訂について

【鹿児島大学法文学部】

- ・ 「外国人材の家族等に対する教育支援」について、本意見の論点となっているのは、児童生徒だけでなく、親世代への支援も必要である、ということだと考える。また、学校現場における支援も重要であるが、学校に入る前のケアやサポートも必要であると考ええる。

⇒【事務局】

- ・ 教育支援は重要であると認識している。先般、県内で日本語学習支援を行うNPO法人の代表者と話をしたところ、学校現場において、ボランティアの方々が、外国籍の親世代に対して支援を行っている。県としては、このような取組を市町村にご理解・ご協力いただきたいと考えている。未就学児への教育についても、ボランティアの方に頼っていることから、教育関係部署と話をし、掲載できることがないか検討したい。

令和7年度外国人材の受入活躍推進に向けた県の主な取組について

【鹿児島県中小企業団体中央会】

- ・ 県内には、技能実習生だけを受け入れている企業が多い。今後、育成就労制度の施行に伴い、育成就労から特定技能へのスムーズな移行（技能検定試験や日本語検定への合格等）に対する支援が必要となってくる。

⇒【事務局】

- ・ 県中小企業団体中央会の会報において、「今後、育成就労から特定技能への移行にあたり、日本語能力が大事になってくる。日本語教育をしっかりと行う送り出し機関が必要」との記事が掲載されていた。来年度の県の新規事業「外国人材確保総合支援事業」において、日本語教育をしっかりと行っているかといった観点から、優良な送り出し機関を調査・選定し、県内企業とつなげていきたいと考えている。また、先ほど申し上げた「外国人材向け日本語学習支援事業」についても、ぜひ県内企業に活用いただければと考えている。

令和7年度以降のかごしま外国人材受入活躍推進会議体制案について

【鹿児島大学法文学部】

- ・ 本案については賛成である。外国人材は国籍、在留資格、産業、受入地域等が多様にある中で、共通の議論の土台を持つことが難しい状況。各ワーキンググループを作り、そこで解像度の高い議論を進め、皆さまから発言いただき、県の施策へ反映するという仕組みは大事である。参加者が発言できる場を作っていただきたい。また、各ワーキンググループで出た意見をまとめて終わりではなく、縦割りの議論をどのように横串を刺すのか、会議全体の立て付けについてもご配慮いただきたい。

⇒【事務局】

- ・ 縦割りで話し合って終わりではなく、横串を刺すよう取り組んでまいりたい。

その他

【鹿児島県老人保健施設協会】

- ・ 特定技能外国人を雇用することが多いが、賃金の高い都市部へ行ってしまいう方が多い。「外国人材の確保」について、新規の確保だけでなく、一度都会に行った方が鹿児島県へ再就職するための相談窓口など、再雇用、Uターン、Iターンの支援もいただければと思う。

⇒【事務局】

- ・ 一度都会へ行った外国人材が、鹿児島県へ再就職するための窓口対応も検討してまいりたい。